

「倭人」の考古学

第1回

4 | 16
(日)

鉄と倭人

館長 黒崎 直

『三国志』魏書東夷伝・韓伝によれば、卑弥呼の時代、半島南部の弁韓（金海地域）や辰韓（慶州周辺）に産出した鉄が、倭に運ばれていました。鉄はこれまで弥生時代の必須要素だと考えられてきましたが、弥生の開始時期が紀元前800年ごろまで遡るとなると問題が生じます。果たして弥生時代の「鉄」の実態とは。最新の考古学の成果から考えてみます。

第2回

6 | 15
(木)

倭人の衣

学芸員 井上 知花

『三国志』魏書東夷伝・倭人伝には、倭人たちの衣服についての記述があります。しかし、弥生時代の遺跡から出土する資料は断片的なものばかりです。一体、弥生人はどのようなものを身にまとい、くらししていたのでしょうか。

第3回

8 | 17
(木)

倭人の「絵画」

総括学芸員 中尾 智行

弥生時代後期の「倭人」の習俗やくらしの具体的復元は、魏志倭人伝などの古代中国の歴史書に頼ることが多くなっています。これは倭人が文字を使っていなかったためですが、彼らがまったく記録を残さなかったかというところではありません。彼らは土器や銅鐸に描かれた「絵画」に自らのくらしやマツリのようなすを残してくれました。倭人が「絵画」に記録したモノや意味について見ていきましょう。

第4回

10 | 19
(木)

倭人とタコ

総括学芸員 塚本 浩司

みなさんは倭人もタコが大好きだったことはご存知ですか。大阪湾岸にはイイダコを獲るためのタコ壺が数千個出土する遺跡もあり、タコ壺漁のルーツが2,000年以上前にさかのぼることがわかります。土器を使ったユニークなタコ漁を考古学的に考えてみます。

第5回

12 | 21
(木)

後世に描かれた倭人と卑弥呼

学芸員 宮寄 奈美加

『三国志』魏書東夷伝・倭人伝には、「鬼道」という不思議な力を持ち、邪馬台国の女王として「卑弥呼」の記述がありますが、みなさんの考える卑弥呼像とはどういったものでしょうか。現代にまで受け継がれた卑弥呼像を、日本画などといった絵画の面から考えてみます。

第6回

2 | 15
(木)

倭人の塩づくり

副館長 秋山 浩三

塩は、生命を維持していくうえで必要不可欠な栄養素です。日本列島では縄文時代以来、土器（製塩土器）を用い、濃縮した海水を長時間にわたり煎熬（煮沸）する方法で塩を獲得してきました。そのような「塩づくり」の様相を検討してみます。

場 所 近鉄文化サロン阿倍野 時 間 午前10時30分～12時
定 員 120名様（要事前申込み） 聴講料 各回1,080円

お申込み・お問合せは「近鉄文化サロン阿倍野」まで



06-6625-1771

[ホームページへのアクセスはこちら]

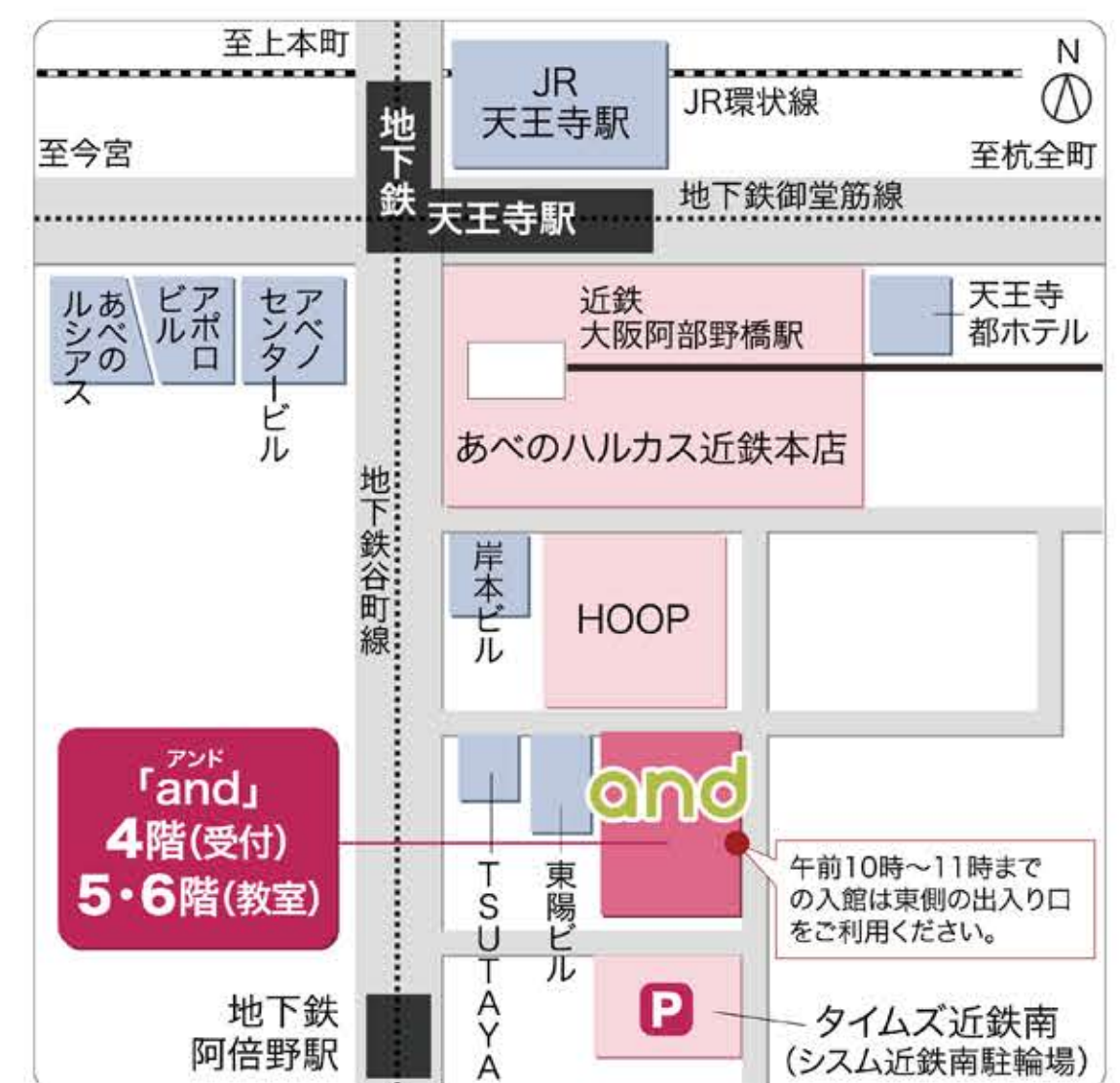
近鉄文化サロン

検索

〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-1-40 and 4階 [受付時間] 10:00～20:00 (日曜・休講日は10:00～17:30)

受講
お申込みは

- 事前にご予約のうえ、ご入金手続きをお済ませください。
 - 満員になり次第、締め切らせていただきます。
 - お支払いには、コンビニ振込みがご利用いただけます。（振込手数料別途216円）
- ※詳しくは、お申込み時にご確認ください。



※価格は、消費税を含んだ税込価格を表示しています。